

# 日本気象学会 昭和60年秋季大会

会期：昭和60年10月29日（火）、30日（水）、31日（木）  
会場：大阪科学技術センター（大阪市西区靱本町1丁目 8-4）

## 目 次

大会行事予定表	531
会場案内	532
研究発表内容一覧表	533
シンポジウム内容	533
研究発表題目	534～540

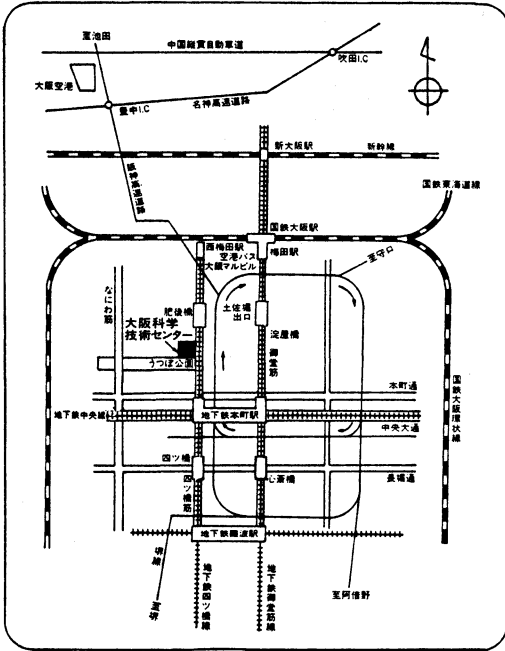
---

## 大会行事予定

1. 会場：大阪科学技術センター（TEL. 06-443-5321）  
 第1会場（第401号室，4階）  
 第2会場（第404号室，4階）  
 第3会場（第405号室，4階）  
 シンポジウム（8階大ホール）
2. 会期：10月29日（火）、30日（水）、31日（木）
3. 行事

行事		
大会（研究発表）	（第1，2，3会場）	10月29日（火）09:00～12:30 13:30～17:00
大会（研究発表）	（第1，2，3会場）	10月30日（水）09:00～12:00
理事長あいさつ，日本気象学会 奨励金贈呈式	大ホール	13:00～13:30
山本賞授与，授賞記念講演		13:30～14:10
中国気象学会訪日代表团 特別講演		14:15～15:15
シンポジウム		15:15～17:00
懇親会	小ホール及び中ホール（8階）	18:00～
大会（研究発表）	（第1，2，3会場）	10月31日（木）09:00～12:30 13:30～17:00

会場案内図

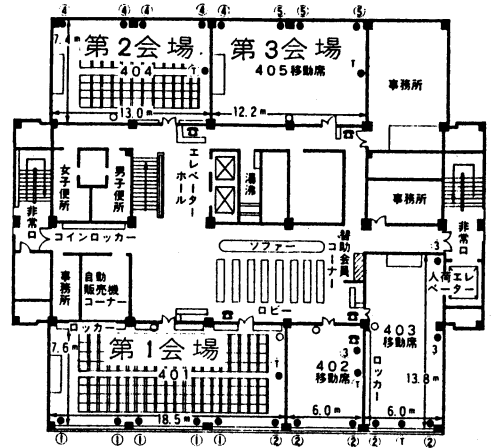


(財)大阪科学技術センター

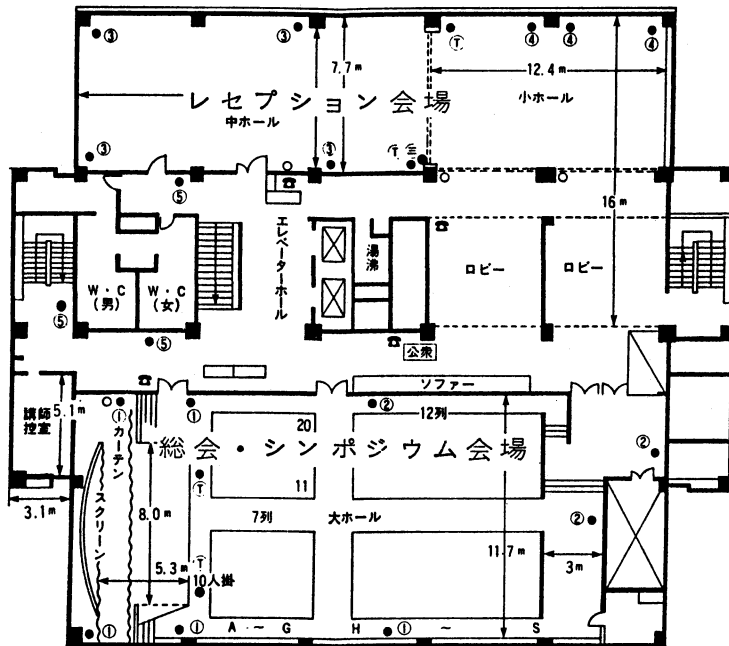
〒550 大阪市西区靱本町1丁目8番4号

TEL 443-5321

■4階



■8階



## 昭和60年秋季大会

( ): 講演番号, — : 座長

		第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
10月29日 (火)	09:00~ 12:30	エクマン境界層 (101~106) —藤谷徳之助— 大気汚染 (107~114) —溝口次夫—	力学 (201~209) —松田佳久— 中層大気 (210~216) —松田佳久—	気候(I) (301~315) —増田耕—
	13:30~ 17:00	局地循環 (115~130) —田中正昭—	中小規模現象 (217~233) —富田正夫—	気候(II) (316~319) —増田耕— 放射 (320~331) —中島映至—
10月30日 (水)	09:00~ 12:00	エーロゾル (131~142) —岩坂泰信—	総観気象 (234~241) —古賀晴成— 大規模現象 (242~244) —古賀晴成—	測器・応用気象 (332~339) —大滝英治—
	13:00~ 13:30 13:30~ 14:10 14:15~ 15:15 15:15~ 17:00	理事長あいさつ, 日本気象学会奨励金贈呈式 山本賞授与, 授賞記念講演 中国気象学会訪日代表团 特別講演 シンポジウム	} 大ホール	
10月31日 (木)	09:00~ 12:30	接地境界層(I) (143~154) —内藤玄—	熱帯気象・台風 (245~259) —山岬正紀—	大気化学 (340~348) —川平浩二— 雲物理・積雲対流(I) (349~354) —梶川正弘—
	13:30~ 17:00	接地境界層(II) (155~169) —米谷俊彦—	大気大循環 (260~275) —伊藤久徳—	雲物理・積雲対流(II) (355~369) —菊地勝弘—

注) 大会参加費 会員 1,000円, 学生会員 500円, 一般 1,500円

## シンポジウム「都市化と災害」

1. 日 時 大会第2日(10月30日)
2. 会 場 大ホール
3. 座 長 文司信貴(京都大学)
4. 話題提供者

股野宏志(大阪管区気象台): 高度情報化時代における気象業務の将来展望

角屋 陸(京都大学): 都市化と洪水

光田 寧(京都大学): 都市化と風災害

## 講演発表者へのお知らせ

1. 第1, 第2, 第3会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演時間は質疑を含めて12分程度です。スライド標準枚数は6~8枚です。
3. スライドのマウンドに番号をつけ, 上下を揃えて下さい。

# 研究発表題目

大会第1日(10月29日) 09時00分~12時30分

(\*印は発表者)

## 第1会場 エクマン境界層

座長 藤谷 徳之助

101. \*文字信貴・光田 寧(京大・防災研): 渦の境界層(室内実験-1)
102. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理): 大気境界層における乱流平衡方程式の各項の高度変化について
103. 近藤純正・\*萩野谷成徳(東北大・理): 複雑地形から成る広域の熱輸送係数
104. 近藤純正・桑形恒男(東北大・理): 日射量変動に起因する地上風速の変動—不安定な大気境界層内における強風の特徴—
105. 蒲生 稔(公資研): 混合層構造の日変化の季節変化(その3)
106. 沢井哲滋・白木正規(気研・予報)・浅野正二(気研・高物): 長さのスケールの子報と地表面 flux—移流霧の鉛直1次元モデル(その4)

## 大気汚染

座長 溝口次夫

107. 加藤真規子(気研・物理): 鉛直方向の濃度分布と拡散パラメータ  $\sigma_z$  について(風洞実験)
108. 横山長之・林 正康・北村興二(公資研)・鈴木基雄(気象協会): 大気拡散ポテンシャルの地域分布
109. 桜井兼市(北教大・旭川): 冬霧発生時の大気汚染(序報)
110. 鶴田治雄(横浜市公害研): 郡山・福島盆地への光化学汚染気塊の長距離輸送過程
111. 大原真由美(広島県環境センター): 酸性雨と降雨強度の関係
112. \*藤田慎一・加藤央之(電力中研): 関東内陸地域におけるオキシダント濃度の変動特性
113. \*光本茂記・溝口次夫・植田洋匡(国立公害研) 栗田秀實(長野県衛公研): 乗鞍岳山頂におけるオゾン濃度 その2, 季節変化および周辺地域との比較
114. 溝口次夫・光本茂記(国立公害研)・古谷長蔵・吉沢 清・鈴木英治・早田寿文・寿恵村隆太郎(山口県公害センター): バックグラウンドオゾンの挙動(第2報)

## 第2会場 力学

座長 松田 佳久

201. \*米谷 慎・井上良紀(北大・工): 地形の効果を含んだプラネタリー波系のパラメトリック不安定
202. 野田 彰(気研・予報): 波の振幅について2次のフラックスと群速度の間に成り立つ一般的関係
203. 和方吉信(九大・理): 鉛直1次元モデルによる強制ロスビー波の平衡解及び安定性の研究
204. 高橋正明(九大・理): Over-reflection のないシアー不安定について
205. \*高野清治・瓜生道也(九大・理): バロトロピック・ロスビー波の Over-Reflection
206. 林 祥介(東大・理): ロスビー波東伝播の ray theory による解釈は正しいか?
207. 矢野順一(京大・理): 縦長 Soliton について
208. 浅田 正(八幡大学): 木星の渦の振動運動と中規模渦の数値実験
209. 田中 浩・山中大学(名大・水圏研): トロポポーズ弱風層と重力波

## 中層大気

座長 松田 佳久

210. 村岡良和(兵庫医大・物理): 冬期中層大気の温度構造とプラネタリー波の伝播
211. 廣岡俊彦(京大・理): 準停滞波と自由振動波の干渉(II)
212. S. Miyahara (GFDP, Princeton Univ., Kyushu Univ.): On the mean wind induced by internal gravity wave packets in the atmosphere
213. 吉澤宣之・田中 浩(名大・水圏研): Wave transience, self-acceleration および saturation を考慮した QBO モデル
214. 山中大学(名大・水圏研): 内部重力波による成層圏弱風層生成論に関する二, 三の問題点
215. 二木 徹・廣田 勇(京大・理): MU レーダによる下部成層圏小規模擾乱の観測(I)
216. \*馬目 薫・松野太郎(東大・理): MUレーダによる対流圏・下部成層圏の2次元的な風系の観測

## 第3会場 気候 I

座長 増田 耕一

301. 大井正一(東理大):成層圏天気図の解析(9月)(3a)
302. 野本真一・千葉 長・矢島栄三(気研・予報):1月の月降水量と500mb循環指数
303. 大川 隆(札幌管区):極うずのサヘルの干ばつ,北海道の少雨に及ぼす影響
304. 大奈 健(広島地台):日本の梅雨の地域分布と環流の特性について
305. 水越允治(三重大・人文):近畿地方中部における梅雨の長期変動傾向
306. 吉野昌史(京都地台):近畿地方の気候特性について
307. 山元龍三郎・岩嶋樹也・Sanga-Ngoic Kazadi(京大・理・気候変動実験施設)・星合 誠(愛知学院大・教養・物理):気候ジャンプ(序報)
308. 小寺邦彦(気研・高物):太陽黒点周期と対流圏

循環

309. 藤田敏夫(気研・予報):19世紀の火山爆発と気候異変
310. 近藤純正(東北大・理):火山大爆発直後の金華山の気温と北半球平均気温の相関関係
311. 高橋浩一郎:火山大噴火と気候との関連の統計的分析
312. 佐藤 功(気研・応用):気圧変化量からみた境界層の気温分布について
313. 福岡義隆(広島大)・兼綱孝紀(広島大・院)・堀越信治(計測科学研究所):微気圧変動による逆転層高度変化と海陸風交替の把握
314. 朴 恵淑(筑波大・院):ヒートアイランド強度と都市の地理的環境要因の影響
315. 福岡義隆(広島大・総合科学部)・\*増野 茂(教育未来社):ヒートアイランドと土地利用の関係についての熱収支的考察

## 大会第1日(10月29日)13時30分~17時00分

## 第1会場 局地循環

座長 田中正昭

115. 佐橋 謙(岡山大・教育):海陸風のスペクトルモデルと観測結果との比較
116. 佐藤 功・栗田 進(気研・応用):局地風の交替時における鉛直流について
117. 里村雄彦(気研・応用):水平シアー流内の地形性擾乱—Harada 渦?—
118. 白崎航一(気研・応用):雲生成をとまなう局地循環のテストシミュレーション(II)
119. 近藤裕昭(公資研):盆地冷却の数値実験(その3)
120. 近藤純正・\*大草直子(東北大・理):盆地状地形の夜間冷却量の計算
121. 大畑哲夫(名大・水圏研):雪氷塊上の斜面下降風の特徴
122. 山沢弘実・近藤純正(東北大・理):気圧傾度によって峡谷を吹く強風について
123. 中田隆一(神戸海洋台):瀬戸内海の陸風収束雲
124. \*光本茂記・植田洋匡(国立公害研)・栗田秀實(長野県衛公研),〔「内陸域における大気汚染の動態」観測班〕:大規模気流の関東山地越えと汚染気塊の長距離輸送
125. 栗田秀實(長野県衛公研)・植田洋匡(国立公害

研):沿岸域から内陸域への長距離輸送の発生機構と汚染物質の輸送過程

126. 渡辺 明(福島大・教育):内陸域へのオキシダント輸送
127. 鶴田治雄(横浜市公害研)〔「内陸域における大気汚染の動態」観測班〕:沿岸域から佐久・上田盆地への光化学汚染気塊の輸送過程と局地風系
128. \*堤純一郎・片山忠久(九大・工)・石久昭夫(九芸工大)・西田 勝(九産大・工):海岸都市における市街地風の統計解析
129. 平松 親(北大・環境研)・谷口 恭(北大・理)・中村 晃(北大・工)・鶴野伊津志・植田洋匡・若松伸司(国立公害研)・斉藤 進(札幌市役所):札幌市の大気環境区—ヒートアイランドと風系の関係—
130. \*鶴野伊津志・植田洋匡・若松伸司(国立公害研)・中村 晃(北大):都市境界層における乱流特性

## 第2会場 中小規模現象

座長 富田 正夫

217. \*平沢正信・猪川元興(気研・予報),栗原和夫(気象庁・数値予報):非静力学・圧縮系モデルによる定常山岳波の数値実験
218. 永田 雅(気研・予報):日本海側の降雪の数値シ

ミュレーションⅣ—収束帯に対する海面水温の影響について、その他—

219. 猪川元興・榊原 均・柳沢善次・石原正仁(気研):一般流に直交する走向の線状降雪雲系の2次元数値実験及びドップラーレーダー観測との比較
220. 榊原 均・柳沢善次・石原正仁(気研):北陸地方西部における降雪系の中小規模構造(V)—海岸線にほぼ平行な帯状降雪系の垂直構造—
221. 吉住禎夫(気研・予報):新潟県の里雪型大雪と寒気内上部の強風帯
222. 白木正規(気研・予報):秋田上空の強風帯の出現の時間変化
223. \*八木正允(気研)・元木敏博・櫃間道夫(衛星センター):季節風吹き出し時の雪雲の解析(I)
224. \*小林文明・菊地勝弘(北大・理):北海道西岸に発生する収束雲の事例解析
225. 武田喬男・岩崎博之(名大・水圏研):気象衛星NOAA データを用いた日本周辺の中規模雲塊の解析
226. 池淵昶允(松江地台):線状エコーの発達について(昭和58年7月23日の集中豪雨)
227. \*岡村博文・山崎信雄・田畑 明・檜尾守昭(気研・台風):台風8506号とそれに伴う降雨帯
228. 荒生公雄(長崎大・教育):長崎豪雨による10分間雨量分布モデルと大瀬戸町幸物の1分間雨量
229. 秋山孝子(気研):梅雨末期の前線活動の変動
230. 檜尾守昭(気研・台風):寒冷前線に伴う湿舌と下層ジェット的事例解析
231. \*小野田 仁(気研・海洋)・山下 旭(函館海洋台):寿都沖の強風帯
232. 上田 博(国立防災センター):Dusan S. Zrnica(NSSL):1台のドップラーレーダーによるガストフロントの自動検出解析例と予測例
233. 石崎秀夫(KKオーシャンルーツ):仮説新前線理論, 新低気圧理論

### 第3会場 気候 II

座長 増田 耕一

316. 田中正之・\*大塚清敏(東北大・理):季節変化を考慮した熱収支気候モデルとその特性について
317. 久保田 効(衛星センター):地球放射収支の海陸による差異について
318. 森山 茂(日大・生産工):地球型惑星の Glacia-

tiona Cycle Model (II)

319. 阿部 豊・松井考典(東大・理):原始水蒸気大気の進化—なにが地球と金星で違ったか—

### 放射

座長 中島 映至

320. \*廣野幹彦・須田 剛(新潟大・工):二酸化炭素 $2.7\mu\text{m}$ 及び $4.3\mu\text{m}$ 帯の吸収
321. \*井出一仁・岡野章一・田中正之(東北大・理):OH-Meinel 帯大気光地上観測における水蒸気吸収の影響
322. \*山内 恭・鈴木一哉・川口貞男(極地研):AVHRR赤外画像データを用いた南極域の雲の解析 1. 雲識別の可能性
323. \*鈴木一哉<sup>1</sup>・山内 恭<sup>2</sup>・芳野起夫<sup>1</sup>・川口貞男<sup>2</sup>(1:電通大, 2:極地研):AVHRRの赤外画像データを用いた南極域の雲の解析 2. 内陸の雲の識別
324. \*高山陽三・高島 勉・増田一彦(気研・衛星):衛星による黄砂の量的推定
325. 高島 勉・\*増田一彦・高山陽三(気研):大気-海洋系における上向き放射強度と偏光度
326. 小林隆久(気研・応用):大気汚染が雲の反射率に及ぼす影響
327. 山内豊太郎・大矢正克(気象大):昭和基地における大気混濁度の変動
328. \*塩原匡貴<sup>1</sup>・田中正之<sup>2</sup>・中島映至<sup>2</sup>・川口貞男<sup>3</sup>・山内 恭<sup>3</sup>(1:気研, 2:東北大・理, 3:極地研):南極昭和基地における太陽直達光及び周辺光の分光観測
329. \*田中正之<sup>1</sup>・塩原匡貴<sup>2</sup>・中島映至<sup>1</sup>・小川 浩<sup>1</sup>・川口貞男<sup>3</sup>・山内 恭<sup>3</sup>(1:東北大・理, 2:気研, 3:極地研):南極昭和基地における天空光強度及び偏光度の分光観測
330. 田中正之・中島映至・\*早坂忠裕(東北大・理):太陽放射観測によるエアロゾルの光学的特性と地表面アルビードの推定
331. \*中島映至・田中正之・早坂忠裕(東北大・理)・岩坂泰信・林田佐智子(名大・水圏研):対流圏中上層および成層圏における大気的光学的厚さの決定

## 大会第2日(10月30日)09時00分~12時00分

## 第1会場 エーロゾル

座長 岩坂泰信

131. \*満田 伯・広瀬勝己・杉村行勇(気研):大気浮遊塵中の有機及び単体炭素含有量とその季節変動
132. \*寺田 豊(気象協会関西本部化学センター)・太田幸雄(北大・衛生工学)・内山政弘・大喜多敏一(国立公害研):粒子上でのSO<sub>2</sub>の吸着及び酸化反応
133. \*大和政彦・小野 晃(名大・水圏研):航空機による海洋上大気中のエアロゾル観測
134. 岡田菊夫・赤枝健治・武田喬男(名大・水圏研):気象衛星NOAAによる黄砂の観測
135. \*功刀正行・宮坂恵子・広瀬妙子・溝口次夫(国立公害研)金澤五寿雄・土器屋由紀子(気研):大気エアロゾルの鉛直分布測定(8)
136. \*伊藤朋之・塩原匡貴・池上三和子・金沢五寿雄(気研):南極におけるエアロゾル粒子濃度の高度分布
137. \*池上三和子・伊藤朋之・金沢五寿雄(気研):エアロゾル粒子の濃度変動の解析
138. 岩坂泰信・\*荒木真一(名大・水圏研):成層圏エアロゾル量の季節変化(I)
139. 岩坂泰信・今須良一(名大・水圏研):ライダーによる成層圏エアロゾル層の偏光解消度[I]-その季節変化一
140. 岩坂泰信(名大・水圏研):極域成層圏エアロゾル層の偏光特性(II)
141. 小林愛樹智・林田佐智子・岩坂泰信(名大・水圏研):レーザ・レーダ観測による particulate depolarization ratio の評価
142. \*田端 功・岡田芳隆・穂田 巖・内野 修・内藤恵吉(気研・衛星):エル・チチヨンドラストが気象要素に及ぼした影響について

## 第2会場 総観規模現象

座長 古賀晴成

234. 水野 量(仙台管区):アメダスによる東北地方の最大降水量の分析
235. 渡部浩章(広島地台):中国地方の豪雨の解析一昭和60年7月5~6日一
236. 児玉安正・浅井富雄(東大・海洋研):西太平洋域

(南半球)の広域雲量分布とその季節変化

237. 二宮洸三(気象庁・数値予報)・村木彦磨(東京管区):梅雨期の大規模場の時間変化
238. 加藤内蔵進(東大・海洋研, 現鹿児島地台)・菅原雅也・黒田友二(鹿児島地台):大陸上の梅雨前線帯付近の下層風系について(気候学的様相)
239. 藤井盛澄(大阪電通大):冬季, 寒気南下に伴う亜熱帯ジェット流の変動
240. \*二階堂義信・佐藤信夫(気象庁・数値予報)・岸保勘三郎(東大):Q-map で見た南岸低気圧の急速の発達過程について
241. 高藪 出(東大・海洋研):急発達する温帯低気圧の数値シミュレーション一上層トラフとのカップリング一

## 大規模現象

座長 古賀晴成

242. 田口彰一(東大・海洋研)北半球500hPa高度場の10~30日周期帯における大規模長寿命擾乱の運動量フラックス
243. \*二宮洸三(気象庁・数値予報)・水野 量(仙台管区):梅雨期の降水量の変動と気温の変動
244. \*鬼頭昭雄(気研・予報)・Carlos R. Mechoso・荒川昭夫(UCLA):海水温異常(エル・ニーニョ)に対する大気の応答-UCLA・GCMによる数値実験一

## 第3会場 測器・応用

座長 大滝英治

332. 塚本 修(岡山・教養):熱電対乾湿計の動特性について一風速変動による時定数の変化を考慮した応答速度の補正一
333. \*長谷美達雄・大沼匡之(新井測量)・田中洋一(ジオンスラムズ)・作藤俊一(東和製作所):超音波積雪深計の開発
334. \*松井哲司・佐崎 進・徳永敬三郎(アドバンスシステム)・大滝英治(岡山大・教養):炭酸ガス・水蒸気変動計の試作(II)
335. 真鍋大覚・佐藤洋子(九大・工)・志賀正信:乱気流の発生位置と異常地磁気
336. 水野 量(仙台管区):1982年4月15日~16日の東北地方の大雨による浸水家屋被害と短時間強雨との対応性

337. 藤原 清 (剣山測候所): 徳島県におけるアメダ  
ス・データを用いた客観解析
338. 飯田茂隆(竹中工務店技術研究所): 延岡地方の最

低気温の予報について

339. 平松 親(北大・環境研): 高校生の「気象」に対  
する関心と理解

## 大会第3日 (10月31日) 09時00分~12時30分

### 第1会場 接地境界層 I

座長 内 藤 玄 一

143. 北林興二・吉門 洋・近藤裕昭・横山長之 (公資  
研): 筑波山周辺の気流観測と風洞実験 (4)
144. 伊藤昭三 (阪府大・工)・加藤真規子 (気研)・  
堀 晃浩 (阪府大・工): 乱流拡散の室内実験と野  
外実験の普遍性について
145. 加藤真規子 (気研・物理): 温度成層中の乱流拡散  
実験 (風洞実験) (I)
146. \*堀 晃浩・伊藤昭三 (阪府大・工): 地形の変化  
に伴う流れについて
147. 岩谷祥美 (日大・生産工): 所与のパワースペクト  
ルとクロススペクトルをもつ多次元風速変動のシ  
ミュレーションに関連して
148. 山田信夫 (日大・生産工): 3次モーメント方程式  
における圧力項のモデルと接地気層への適用
149. 島貫 陸 (東京学芸大): 2次元拡散のマルコフ連  
鎖シミュレーション (2)
150. \*森 征洋 (香川大・教育)・宮崎 勉 (観音寺中):  
風向・風速の平均値と標準偏差の評価方法につ  
いて (II)
151. 半田 隆・川越邦雄 (東理大・火災科研)・吉川友  
章 (気研)・真重順次・城 智子 (CRC): 室内火  
災の数値シミュレーション [III] 一火源の位置を  
変えた場合一
152. 米谷俊彦 (岡山大・農生研): 植物群落上の乱流特  
性について (20)
153. 近藤純正・川中教子 (東北大・理): 粗度が大きな  
地表面上のエネルギー輸送の研究 (3)
154. 横山長之・水野建樹・北林興二 (公資研)・\*鈴木  
基雄 (気象協会): 接地安定層中での拡散の特性

### 第2会場 熱帯気象・台風

座長 山 岬 正 紀

245. 井沢龍夫 (気研・台風): 台風のスパイラルバンド  
(2) 一波数解析一
246. \*藤井 健 (京産大・教養)・光田 寧 (京大・防  
災研)・塚本 修 (岡山大・教養): 日本本土に來  
襲する台風の確率統計

247. 石島 英 (琉大): 地形による台風変形の数値実験  
のための数値渦生成
248. \*岩崎俊樹・中野 尚 (気象庁・数値予報)・杉 正  
人 (フロリダ州立大): 台風進路予想モデルの開発
249. 林 祥介・住 明正 (東大・理): GCMに見出さ  
れた30日周期の wave (序報)
250. \*村上多喜雄 (ハワイ大学)・L.X. Chen (中国大  
気科学研究所)・A Xie (北京大学): OLR デー  
タに見られる30~60日変動の東進
251. 中沢哲夫 (気研・台風): 1982年 熱帯域における  
OLR の季節内変動
252. \*山崎信雄・村上勝人 (気研・台風): 短周期熱帯  
じょう乱の振幅変調と大規模大気運動の関係
253. 村上勝人 (気研・台風): 北半球冬のモンスーン期  
における熱帯の大規模積雲活動
254. 隈 健一・金光正郎 (気象庁・数値予報): モンス  
ーンのオンセットは予報できるか
255. 新田 勳 (気研・予報): 西部太平洋雲量変動のテ  
レコネクション
256. 丸山健人・常岡好枝・新田 勳 (気研・予報):  
熱帯西部太平洋における衛星雲量と降水量の比較  
(続)
257. 安成哲三・T. N. Krishnamurti (フロリダ州立大  
学): Southern Oscillation (南方振動) の全球構  
造 (II) SO サイクルにともなう循環場の変動
258. 住 明正 (東大・理): 熱帯における Convection  
Center の年変化について
259. 井上豊志郎 (気研・台風): Split Window データ  
による雲形分類一熱帯における積雲活動解析への  
応用一

### 大気化学

座長 川 平 浩 二

340. 青山道夫 (気象研・地球化学)・葛城幸雄: 日本に  
おける  $^{90}\text{Sr}$  降下の季節変化
341. \*伏見克彦・井上久幸・杉村行勇 (気研・地化,  
\*現気象庁・海洋): 海上大気中のハロゲン炭化水  
素
342. 近藤 豊・岩田 晃・森田恭弘・高木増美 (名大・



- 空電研)・村松久史・広田道夫(気研):対流圏窒素酸化物とオゾンの緯度分布の観測
343. 忠鉢 繁(気研・高物):昭和基地におけるオゾン特別観測(第4報)(地上オゾン濃度冬期極大についての一考察)
344. 田中正之・\*中澤高清・塩原匡貴・大島裕之・青木周司(東北大)・川口貞男・山内 恭(極地研)・牧野行雄(気研)・村山治太(横浜国大):昭和基地における大気中の二酸化炭素濃度の変動
345. 田中正之・中澤高清・\*青木周司(東北大・理):日本上空における大気中の二酸化炭素濃度の時空間変動
346. 柴崎和夫(国学院大):極域成層圏 NO<sub>2</sub> 全量の季節変化一昭和基地での地上観測
347. 関原 疆(東理大):オーロラX線による成層圏炭酸ガスの分解について(誤りの訂正と補足)
348. 川平浩二(京大・理):プラネタリー波が誘起する高緯度の電離圏領域擾乱

## 雲物理

座長 梶 川 正 弘

349. \*清 忠師・権田武彦(東理大・理工):低圧空气中で成長する多面体水晶の晶癖変化
350. 山下 晃(大阪教育大)・大野隆行(国際仏教高)・大北孝子(三原台中):雪結晶の成長と風との関係一(実験その1)一
351. 高橋庸哉・福田矩彦(Univ. Utah):雪結晶の成長に伴う諸物理量の変化について一低雲水量の場合一
352. 古川義純・\*山本正樹・黒田登志雄(北大・低温研)・\*東北大・科研):融点温度近傍での雪結晶の形と氷結晶表面の構造との関連
353. 梶川正弘(秋田大・教育):雪片の落下運動について
354. 小西啓之(大阪教育大)・遠藤辰雄(北大・低温研):一降雪間の降雪粒子の粒径と落下速度の変化

## 大会第3日(10月31日) 13時30分~17時00分

## 第1会場 接地境界層 II

座長 米 谷 俊 彦

155. 川島茂人(農環技研):航空機 MSS データによる地表面熱収支分布の推定
156. 近藤純正・\*山崎 剛・萩野谷成徳(東北大・理):熱収支法による融雪量の計算
157. \*高原浩志・樋口敬二(名大・水圏研):雪面・裸地の混在する地表面上における融雪過程の数値実験
158. 大平貴裕(気象協会関西本部)・播磨屋敏生(北大・理):積雪期のヒートアイランド(II)
159. 小林 守・河村 武・北原隆朗・石 重和(筑波大)・中根英昭・竹内延夫・大喜多敏一(国立公害研):筑波科学万博会場における夜間のヒートアイランドの観測(序)
160. 中根英昭・清水 浩・杉本伸夫・松井一郎・林田佐智子・飯倉善和・笹野泰弘・竹内延夫・大喜多敏一(国立公害研)・小林 守・成重 和・北原隆朗・河村 武(筑波大):レーザーレーダーによる科学万博会場上空の夜間のエアロゾル濃度鉛直分布の観測
161. \*森 洋介(宮城教育大)・佐藤 威(東北大・理):

山地で囲まれた沿岸地方で観測された冷気層

162. 安田延壽・近藤純正(東北大・理):V字谷の山風の非定常過程
163. 松岡春樹(無所属):蒸発(凝結)ないとき及びあるときの地表面から(へ)の熱流束を所謂乱流顕熱流束で表現することについての一考察
164. 横井武長(米子高専):レーザービームによる地表近くの温度プロファイルの測定
165. 林 正康(公資研):気候的大気汚染モデルのための乱流解析
166. 伏見克彦(気研・地化, 現気象庁・海洋):筑波における地表付近大気中の二酸化炭素フラックス
167. \*大滝英治(岡山大・教養)・米谷俊彦(岡山大・農生研):大気・地表間の二酸化炭素交換過程の特性 ソルガム群落上での二酸化炭素輸送
168. \*内藤玄一(国立防災センター)・宗山 敬・佐々木保徳・浅沼市男(海洋センター)・青田昌秋(北大・低温研):海氷上の大気乱流の観測(1)
169. \*千葉 修(高知大・理)・小林俊一(新潟大・積雪地域災害研究センター):極大風速を示す高度 Z<sub>h</sub>の時間変化について[南極みずほデータの解析]

## 第2会場 大気大循環

座長 伊藤久徳

260. 広野求和(九大・理): 火山大爆発後エアロゾル加熱による大気運動の変化
261. S. Miyahara (GFDP Princeton Univ., Kyushu Univ.)・Y. Hayashi and J.D. Mahlman (GFDL/NOAA Princeton Univ.): Interactions between gravity waves and planetary scale flow simulated by the GFDL "SKYHI" general circulation model
262. 三角幸夫(仙台管区): 赤道成層圏準二年周期振動と中高緯度の関係(序報)
263. 佐藤康雄(気研・予報): 冬季中・高緯度対流圏における波動平均流相互作用の解析一波の増幅機構について一
264. 田中 博(ミズリー大学): ノーマルモードによる傾圧不安定, 波数1の増幅およびブロッキングの研究
265. 隈 健一(気象庁・数値予報): 1ヵ月予報の可能性について(2)
266. 石崎秀夫(KK オーシャンルーツ): 仮説新大気大循環論
267. 長谷川直之・中村 一・二宮洸三(気象庁・数値予報): 大循環的にみた梅雨前線の形成・維持機構—1984年の予報例から—
268. 馬場 厚(気象庁・数値予報): 海面水温の客観解析
269. \*西本洋相・馬場雅一(大阪管区): 日本付近における亜熱帯高気圧の動向
270. \*新田 勲・丸山健人(気研・予報): 元木敏博(衛星センター): 西部太平洋循環場の長期変動
271. \*村上多喜雄(ハワイ大学)・L. X. Chen(中国大気科学研究所)・A. Xie(北京大学): 季節サイクル, 低周波振動, 非定常擾乱の間の関係
272. \*山崎孝治・時岡達志(気研・予報): MRI-GCMIによる10年間のシミュレーション(第2報)
273. \*谷貝 勇・時岡達志・山崎孝治(気研・予報): 細かい地形に対応して地表摩擦を変えた実験
274. \*住 明正(東大・理)・佐藤基和(気象庁・数値予報): Sub-grid Scale の地形の大気大循環に及ぼす効果について
275. 阿部 豊・松井孝典(東大・理): 地球形成時の衝突脱ガスによる大気形成—大気・海洋の起源につ

いて—

## 第3会場 雲物理・積雲対流

座長 菊地勝弘

355. 遊馬芳雄・菊地勝弘・谷口 恭(北大・理)・藤井智史(北大・工): 降雪時の地表付近の大気電位傾度, 降水電荷の鉛直構造の測定(Ⅱ)
356. \*徳岡敦子・樋口敬二(名大・水圏研): 降雪の酸素同位体組成の観測とレーダー観測の比較
357. 八木鶴平・上田 博(国立防災センター・筑波)・中村 勉・中村秀臣・阿部 修・沼野夏生(国立防災センター・新庄) 盆地降雪のレーダー観測Ⅰ—新庄盆地の降雪分布—
358. 上田 博・八木鶴平(国立防災センター・筑波)・中村 勉・中村秀臣・阿部 修・沼野夏生(国立防災センター・新庄): 盆地降雪のレーダー観測Ⅱ—鉛直構造の特徴—
359. 椎野純一(気研・台風): 3次元モデルによる対流雲の研究(2)—対流雲の併合過程の数値実験—
360. 武田喬男・棚橋修一(名大・水圏研): 多重セル積乱雲群の形成過程における鉛直シアへの依存性—3次元数値実験—
361. 堀端康善(姉東芝システム・ソフトウェア技術推進部): 地形情報をとり込んだ3次元雲モデル
362. \*中島健介・松野太郎(東大・理): 積雲クラスターの形成に関する数値実験
363. \*坪木和久<sup>1</sup>・藤吉康志<sup>1</sup>・小西啓之<sup>2</sup>・山田知充<sup>1</sup>・遠藤辰雄<sup>1</sup>・若濱五郎<sup>1</sup>(1: 北大・低温研, 2: 大阪教育大): バンド雲の3次元構造成の特徴
364. 赤枝健治(名大・水圏研): 梅雨前線に伴なう層状性降水雲の気象衛星とレーダーによる同時観測
365. \*播磨屋敏生・加藤聖治・菊地勝弘(北大・理): 梅雨前線付近のレーダーエコーの微細構造と合流
366. \*加藤聖治・播磨屋敏生・菊地勝弘(北大・理): 梅雨前線付近のレーダーエコーの微細構造と移動
367. 武田喬男・劉 国勝(名大・水圏研): Nimbus 7 マイクロウェーブ放射計による海上の雲の凝結水量の評価
368. \*和田 誠(極地研)・岩坂泰信(名大・水圏研): 南極昭和基地の雲の特徴—1983年冬のライダー観測から—
369. 遠藤辰雄(北大・低温研)・小西啓之(大阪教育大)・若濱五郎(北大・低温研): Cloud Seeding